

岐阜分室便り 『岐阜分室(庁舎)の紹介』



岐阜分室長 大竹 良昌

岐阜分室は、岐阜県の岐阜総合庁舎の一室を借り業務をしています。この庁舎は岐阜県庁舎でしたが、昭和41年に新（現）岐阜県庁舎の完成に伴い、岐阜総合庁舎（以下、「旧庁舎」という）として利用されています。そこで、今回は県庁時代に遡って旧庁舎を紹介します。併せて、長年の疑問であった「二重窓」の真相についても紹介します。

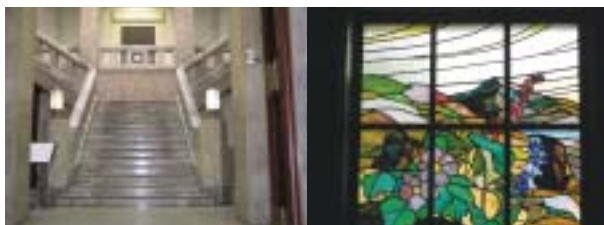
◎旧庁舎

旧庁舎は、大正13年（1924）に新築されたもので、「近世代にして専ら立体美の表現に努め簡単便利を旨とし耐震耐火、実用的要件を具備するを以て主眼とせり」（岐阜県庁舎新築工事概要）を基本として、地下1階、地上3階（一部4階）建て、基礎、柱、桁、梁、床は鉄筋コンクリート造りで、外装は煉瓦張りの上にモルタル仕上げ（擬石塗装）がされているようです。（一部破損状況より推定）



「正面玄関」

玄関を入ると正面に階段があり、2階から3階への階段は左右に開くようになっています。内装や階段の手すりには当県の西濃産や四国、中国産の大理石が使用され、階段広間の天窗には県内を象徴する風景のステンドグラス6枚がはめ込まれています。



「階段」

「ステンドグラス」

1階の内装大理石は「シカマイア」を含むものが使用されています。この「シカマイア」は、地球上最大級の二枚貝で全長は1m以上、生息していたのは2億5千万年前のペルム紀と呼ばれる時代の赤道近くとのことです。（総合庁舎玄関の説明パネルより）

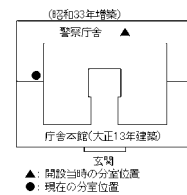


「シカマイア」



「模型」

その後、組織改革などにより手狭になり、昭和26・33・37年に増築され、岐阜分室が入居している場所は昭和33年の増築部分で、警察本部を独立するもので地下1階、地上3階（一部4階）の鉄筋コンクリートで造られました。



「配置図」

◎二重窓

岐阜分室開設当時（平成7年）は「刑事部長室」付近でしたが、平成13年から現在の場所の「自動交換機室」に入居しています。この部屋が岐阜総合庁舎唯一の二重窓になっているもので、何故、この部屋だけが「二重窓」になっているのか疑問となりました。そこで、岐阜県図書館で調べようとしたのですが、陳列してある書籍の中にはなく、女性職員の方から何を探しているのか聞かれ目的の書籍がないことを説明したところ、倉庫の中の一冊の書籍中の一記事を探していただき、当時の組織配置図から「自動交換室」であったことが判明しました。その記事には施工業者もかかれていたことから、「二重窓」の真相を聞いてみると“推測として、交換手が騒音で聞き取りにくいように「二重窓」にしたのではないか”とのことでした。私の想像では収入役室のような部屋で大型金庫など貴重な物が設置してある部屋ではと思っていましたが、意外と防音対策でした。

大正13年建築の旧庁舎は、貴重な文化・建築遺産でもあり、永く保存していただけるよう願っています。



参考文献

岐阜県史・通史編・近代上：岐阜県、昭和42年
岐阜総合庁舎建築の歴史：岐阜建築事務所編集、平成18年
華陽・十月号第五十三号第十号：岐阜県警本部、昭和33年